

1ユニットに3カ所のトイレが高齢者のADL向上をサポート。



コーナーが開閉するトイレは、必要に応じて2方向を開閉して使用する。

コーナーが開閉するトイレには、前方ボード、はね上げ手すり、I型手すり、背もたれなどが設置されている。大便器は異物を取り除くのに便利な掃除口付き。

つくばエクスプレスの「柏たなか」駅のすぐ近くに2017年4月にオープンした、介護老人保健施設 葵の園・柏たなか。同じ医療法人社団 葵会が経営する柏たなか病院に隣接しているため、高齢者にとっては安心できる環境です。ここでは医師や看護師による医学管理のもと、在宅復帰に向けて、介護スタッフによる食事・排泄・入浴などの日常生活のお手伝いや、リハビリスタッフによるリハビリテーションが行われています。



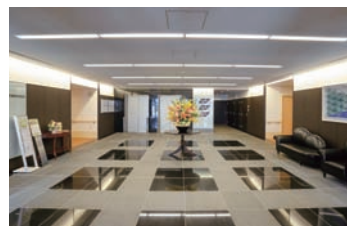
3階建ての建物は、病院など周辺の街並みと調和している。

リクライニング車いすでの使用なども考えたバリエーション豊富で工夫されたトイレ。

入所の定員は100名。10名ごとのユニットケアが行われています。6~7割の方がトイレを使用。車いすの利用者は7~8割です。

個室にトイレはありませんが、広いトイレが1ユニットに3カ所あるため、安心して不便なく使えます。コーナーが開閉するトイレや、左右勝手を考えたトイレなど、バリエーションも豊富。コーナーが開閉するトイレは内部も広く、リクライニング車いすでもスッと入れて介助もしやすくなっています。大便器は清掃のしやすい壁掛けタイプや、掃除口付きのタイプも採用。オープン3カ月を経過した時点ではまだ掃除口を使うケースはないが、パッドなどを流してしまった時に必要であるとのこと。なお、日中のポータブルトイレの利用はニオイなどの問題も考慮して廃止し、夜間は希望者のみが使用しています。

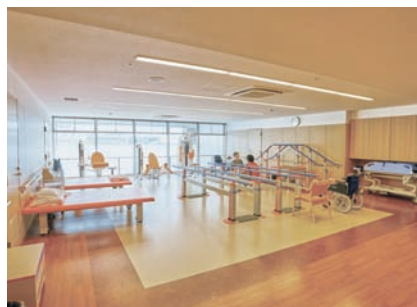
きれいな施設は利用者や家族のためだけでなく、スタッフのモチベーションも向上させ、プライドとなり、活力を生み出しています。



エントランスホール床には格調ある大理石を使用。

介護老人保健施設 葵の園・柏たなか

- 竣工年月 / 2017年3月
- 所在地 / 千葉県柏市小青田70-4 東65街区3-1
- 施主 / 医療法人社団 葵会
- 設計 / 株式会社奥野設計
- 延床面積 / 5,103.25㎡
- 定員 / 入所100名、通所40名



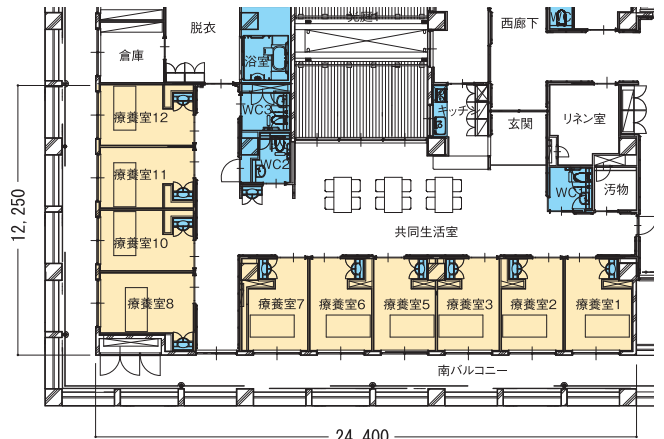
2Fのリハビリスペース。在宅復帰に向けて力を入れている当施設では、2Fにキッチンのある自立支援訓練室も用意している。なお、1Fには通所のリハビリスペースが設けられている。



中庭でのレクリエーションの光景。ライトコートが各階の空間に明るさをもたしている。



1Fの多機能トイレには、前方ボード、はね上げ手すり、背もたれなどを設置。ペビーチェアやオストメイト対応器具も備えられている。



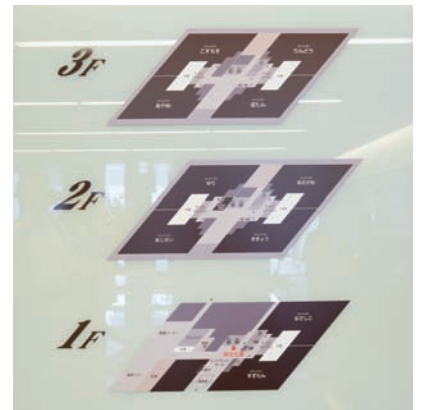
2F 平面図 (1ユニットのみ)



窓が広く明るい個室。車いすでも使いやすい洗面カウンターが設けられている。なお、施設内の床には、転倒対策としてクッション性のある長尺シートを採用している。



共用のトイレ。前方ボードは、片足が動かない人でも安定できると言う。



フロアのレイアウトを紹介している壁のサイン。各ユニットには「なでしこ」「すずらん」などの花の名前が付けられている。

Voice 施設長さんからの声

病院と高齢者施設との連携を大切にしています。



施設長
古山信明さん

私は隣の病院からこちらに赴任したので、病院と高齢者施設の両方を知っていることは強みだと思いますし、双方の連携は上手くいっていると感じます。施設から通院したり、退院後に施設へ来られるケースもあります。今後はここでの新たなチーム体制などが、やがて葵会全体の良いモデルになるとうれしいです。

Voice 看護師長さんからの声

3つの職種のチームで在宅復帰をサポートします。



看護師長
落合美由紀さん

この施設には、在宅復帰強化型の役割があります。そこで、リハビリ、介護士、看護師という異なる職種の3人がチームを組んで、1人の利用者さんをサポート。共通理解によって方向性を確認しながら、目標を設定しています。在宅復帰に向けてリハビリ意欲を高められるように、励まし合って効果を上げています。

Voice 事務長さんからの声

分散トイレが高齢者を支えます。



事務長
石森章太郎さん

一人ひとりの生活空間をできるだけ広く快適にするため、トイレは個室の外に出しました。高齢者には、焦らず快適に使えるトイレが特に必要。混雑することもなく、ゆっくり使ってもらっています。

Voice 作業療法士さんからの声

「ADLシート」で情報共有しています。



リハビリ主任
作業療法士
井藤正典さん

リハビリ単独では難しいことも、介護士や看護師との連携によって克服し、利用者の能力を個別に高めていきたいです。例えば夜間のトイレの使用状況なども「ADLシート」で情報共有しています。

Voice 設計担当の方からの声

駅前全体の街づくりの一環でした。



株式会社奥野設計
意匠設計 技師長
上原聡さん

施設づくりというより、街づくりの一環でした。既存の病院とは施設の性質が異なるため、同じような外観にするのは難しかったのですが、調和したイメージにして街並み全体に一体感を生み出しています。